



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

今週の概要

■ 第 26 週の感染症情報

⊕ 第 26 週の感染症情報（6月24日(月)～6月30日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	2.41	↑	↑↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.21	→～↓	→～↓	↓	↓
3	ヘルパンギーナ	0.85	↑↑	↑↑	→	↑↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.74	→～↓	→～↓	→～↓	↓
5	突発性発しん	0.50	→～↑	→	↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（25→26週）は116→134例に増加した。上位5疾患は①感染性胃腸炎（44→41例）、②手足口病（22→36例）、③ヘルパンギーナ（6→16例）、④A群溶連菌咽頭炎（8→15例）、⑤咽頭結膜熱（10→7例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が2例あった。基幹定点の報告はなかった。

（有山 記）

県北部外来状況 外来は感染症が減っています。インフルエンザもまだありますが、ほとんどは夏風邪になっています。咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナがでています。ほとんどが保育園児です。今年の手足口病は夏が無く、口内炎と四肢の発疹のみの方ばかりです。感染性胃腸炎はほぼありません。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は103例で、前週報告の113例からやや減少。上位5疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④突発性発しん、⑤水痘の順で、手足口病が感染性胃腸炎に入れ替わり第1位となった。手足口病の報告数(37例)は、増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数(10例)は、横ばい。突発性発しんの報告数(9例)も、横ばい。感染性胃腸炎の報告数(30例)は、減少。水痘の報告数(5例)は、やや減少。眼科定点から流行性角結膜炎の報告が、桜井HC管内;2例、葛城HC管内1例の計3例あった。基幹定点からの報告は、桜井HCおよび葛城HC両管内共になかった。(村井 記)

県中部外来状況 外来数は普通。そう多くない。夏風邪のパターンとなって来た。手足口病が流行中。生後6ヶ月の乳児で発熱、手足の発疹も多く、口内炎も多い例があった。ヘルパンギーナは殆ど見られない。感染性胃腸炎少しづつ続いている。水痘も流行中。その他A群溶連菌感染症が僅か。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(25→26週)は17→27例と増加。報告のあった疾患は、①ヘルパンギーナ(4→10例)、②手足口病(3→9例)、③感染性胃腸炎(4→4例)、④突発性発疹(2→2例)、⑤水痘(0→1例)、⑥流行性耳下腺炎(0→1例)であった。(柳生 記)

県南部外来状況 咽頭発赤、数日高熱が続く夏風邪が多く、感染性胃腸炎は減少した。ヘルパンギーナや手足口病も増加しており、水疱の多い手足口病は2、3日高熱が出ている。(寺田 記)



感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>